

[成果情報名]極短穂型 WCS 用稲品種「たちあやか」の栄養価

[要約]極短穂型 WCS 用稲品種「たちあやか」の飼料成分・繊維消化率は草型が同様の「たちすずか」と差がなく、可消化養分総量は高い。

[キーワード]飼料イネ、極短穂型品種、消化率、可消化養分総量

[担当]飼養技術研究部

[代表連絡先]電話 0824-74-0331

[研究所名]広島県立総合技術研究所畜産技術センター

[分類]研究成果情報

[背景・ねらい]

極短穂型 WCS（ホールクロップサイレージ）用稲品種の「たちすずか」は、優れた栽培特性と飼料特性により栽培面積が拡大している。しかし、「たちすずか」は感光性が強い極晩生品種であることから、出穂後 30 日目以降の収穫適期が 10 月上旬となり、それ以前の収穫体系に適応できない。このため、9 月収穫を希望する一部の農家からは、より早生の極短穂型品種が求められている。これらの要望に対し、早晩性が「ホシアオバ」とほぼ同じ中生で極短穂型の品種「たちあやか」が開発され、「たちすずか」と同様な優れた飼料特性が期待されている。

本研究では、「たちあやか」WCS の成分組成を明らかにするとともに、ヤギを用いた消化試験により、「たちあやか」と「たちすずか」における各成分の消化率および可消化養分総量を求めて両品種の栄養価を比較する。

[成果の内容・特徴]

1. 供試した「たちあやか」と「たちすずか」は、両品種とも出穂後 30 日目（黄熟期）に収穫し、ロールベールに調製後「たちあやか」は 113 日、「たちすずか」は 107 日間貯蔵した WCS を用いる。
2. 供試した WCS の成分組成は、両品種間に大きな違いは認められない（表 1）。
3. 各成分の消化率および可消化養分総量は、両品種間に差は認められない（表 2）。
4. 「たちあやか」は「たちすずか」と同様に繊維成分の消化率と可消化養分総量が高い特徴を備えている。

[成果の活用面・留意点]

1. 本成果はヤギを用いた消化試験の数値であるが、ウシへの給与における「たちあやか」WCS の消化率および栄養価として活用できる。

[具体的データ]

項目	たちあやか	たちすずか
乾物	34.0	35.3
粗タンパク質	4.9	5.2
粗脂肪	1.8	1.8
可溶無窒素物	56.6	54.5
粗繊維	25.6	27.2
中性デターゼメント繊維	45.4	48.2
粗灰分	11.0	11.2

項目	たちあやか	たちすずか
粗タンパク質	46.5 ± 5.2	46.1 ± 3.1
粗脂肪	42.0 ± 8.3	47.2 ± 0.4
可溶無窒素物	71.1 ± 0.6	67.7 ± 1.6
粗繊維	59.4 ± 0.9	59.9 ± 2.7
中性デターゼメント繊維	51.3 ± 1.3	51.1 ± 1.9
可消化養分総量	59.5 ± 0.5	57.6 ± 1.7

平均値±標準偏差

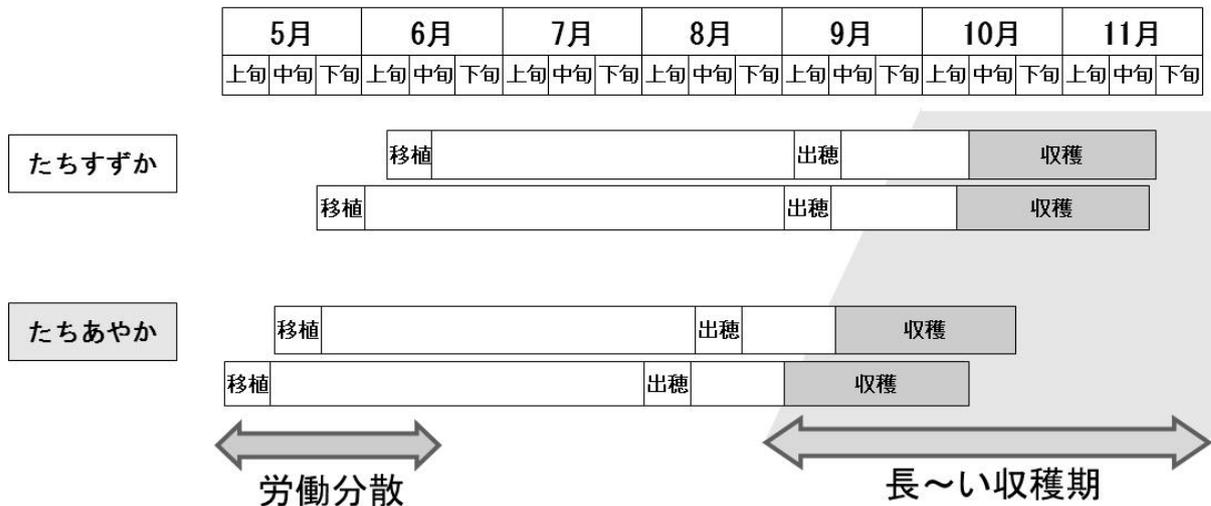


図1 たちあやかの作期

(河野幸雄)

[その他]

研究課題名：濃厚飼料価格高騰に対する自給粗飼料多収・多給技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2009～2012年度

研究担当者：河野幸雄、福馬敬紘、城田圭子